

【評価報告書】

学校法人富高学園
幼稚園型認定こども園 富高幼稚園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取組		
第三者評価結果の総評		P2
第三者評価結果		P3～14
第三者評価確認書類リスト	非公表	P15～P17
第三者評価結果（詳細）	非公表	P18～P34

（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施 設 名 称	富高幼稚園
運 営 法 人 名 称	学校法人富高学園
施 設 種 別	幼稚園型認定こども園
代 表 者 氏 名	園長 森迫建博
施設所在地	〒883-0045 宮崎県日向市本町12番10号
電話番号	0982-52-3736
FAX 番号	0982-53-5305
ホームページアドレス	http://www.tomitaka.ac.jp/
メールアドレス	tomitaka@tomitaka.ac.jp
事業開始年月日	昭和6年(1931年)9月1日
保育者数・職員数	35名・5名 計40名
施設・設備の概要	園地総面積 2,299.66 m ² 園舎敷地 929.44 m ² 運動場 835.01 m ²

【理念・基本方針】

乳幼児期における「アタッチメント」の重要性。子どもが身近な人やものに対する「あこがれ」がいっ
つしか「あそびこみ」につながっていくこと。保護者・保育者は子どもにとって「安心の基地」であ
るとともに「安全な避難所」であり、その子が今どこまで遠くに行けるかを表す「安心感の輪」が拡
がる事こそ成長・発達である。これらのことを前提に「健康な体」「考える力」「豊かな感性」を土台
に、「自立心」と「他者と共生する心」を育てることを大切にしている。

【施設の特徴的な取組】

グリーンスクール（総合野外学習施設）での活動や「S I あそび」（知能教育）、日
本人及び外国人講師による「ハッピータイム（英語あそび）」、専任講師による「体
育あそび」などに取り組んでいる。

【評価機関情報】

評価機関名	(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	令和6年12月11日
評価者	H28A00540、R04B01046
ECEQ®コーディネーター	EH30450295、EH26450117、 EH29450258、EH28450221、 EH28450220

【総評】

●総合評価

評価〔 A 〕

「遊び」を通しての総合的な指導や援助がすべての保育の基盤として実践されていることは、富高幼稚園の教育方針の筆頭にある「集団の中で個人を伸ばす教育」をまさに現わしている。そこに、子どもの主体性が広がる園生活を大事に育んでいる保育者集団の願いも強く伝わってくる。子どもと保育者の関係性も柔軟で安定感がある質の高い保育が展開されている。法人運営も、当こども園を中心に90年以上にわたり、堅実な働きを続けておられることは他の模範となるものと思われる。

●特に評価が高い点、園の良さ等

園の遊びの多様さと、それを実現していく人的環境の豊かさは、大きく評価できる。それぞれの保育者が互いの役割や連携をよく理解できていることで、遊びに夢中になる一人ひとりの子どもの援助がうまく行われていることは特筆すべきことである。公開保育やヒアリングにおいても、園長先生のリーダーシップのもと、各教職員が園の理念・方針をよく理解しつつ、子どもたちに関わっている姿を垣間見ることができた。その姿勢は子どもたちにも反映されており、主体的に環境に働きかける様子が印象的だった。

●課題、改善を求められる点

遊びの環境づくりが豊かに構成されていることは大変評価できる。一人ひとりの興味関心を支える環境の構成の細かい配慮がある。しかし、さらにより良い工夫や活用がなされる余地も残されているように思う。たとえば、子どもたちの飼育や栽培に親しむ環境づくりや絵本や図鑑などにも目を向け新しい課題や知識を発見するような環境を創ることについては期待したい。また学校環境衛生検査について、ホルムアルデヒド、ダニ・アレルゲン、照度、空気等の検査も実施できるとさらに良い。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

自園が大切に取り組んできた環境の構成について、教職員の想いが子どもたちに伝わっている（子どもの姿として表れている）事を第三者評価として評価して頂き、大変嬉しく思う。また、人的環境の評価についても過分な評価を頂き、職員一同、今後の励みと活力になった。アドバイス頂いた飼育や栽培に親しむ環境については、自園の総合野外学習施設の強みも十分に生かし、より豊かな環境を構築していきたい。今回第三者評価を受けさせて頂く中で、自園の現状について振り返り、深く考える時間が、質の向上を図るうえで大変大切な時間である事を実感した。職員間でも自園についての語り合いを大切にしていきたい。

【第三者評価 結果】

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

良さ／

総合野外学習施設や社会資源(図書館・駅・市役所・郵便局等)が近くにあり、自然と触れたり、地域の方々と交流を図ったりできる環境に恵まれている。

保育者が結婚・出産後も継続して保育に携わることが多いので、保育者の年齢が偏らず保育を多角的に創造できる人的環境がある。

協力的な保護者が多く保育者との連携がより良く進んでいる。

課題／

保育者が主体的かつ積極的に保育に取り組めていくことをより高める関わり。

若い保育者の指導にあたる中堅・管理職へのケアと安定。

配慮の必要な子どもへの対応や保護者の受容。

2. 公開保育実施前後における課題等

① 公開保育実施時の課題等

公開保育で示された課題

0～1歳児／子ども達が、それぞれの思いをもちながら遊ぶことができる環境であるか。

人との関わりを心地よく感じられる保育者の言葉掛けは聞かれたか。

2歳児／子ども達は遊びに積極的に取り組み、人と関わりながら思いを相手に伝えていたか。

2歳児は自己表現の方法を習得する時期であるが、保育者は子どもの気持ちに寄り添い、子ども同士の仲立ちができていたか。またどのような工夫（言葉掛けや環境など）が必要だと思うか。

3歳児／自分の気持ちを伝えられるようにするために、活動で工夫できる点があれば教えて欲しい。

4歳児／対話の中で、子どもの考えや想像力、発想を引き出す保育者の工夫や問いかけはみられたか。子ども達が“自分達のまち”に興味、関心をもっていると思われましたか。それはどのような場面で感じられたか。

5歳児／遊びの中でどのような協同的な姿がみられたか。相手の話に耳を傾ける、また学級活動中に話を聞く態度が身に付くためには、どのような保育者の関わりが必要か。

②公開保育後の協議会における外部から見た良さや課題

公開保育参加者からのフィードバックで得た良さや課題

課題／

ハサミ等の安全面への配慮やコーナー遊びでの子どもの様子をどのように共有していくかが挙げられた。

良さ／

保育者の子ども一人一人への温かな声かけや眼差しが素晴らしいという意見が多くあった。コーナー保育においても、クラスの枠を超えて声かけしたり、子どもと一緒に楽しんだりする姿も見られた。好きな素材や用具を選べるよう種類や量が豊富に準備されており、子どもが取りやすく、片付けやすいように分かりやすく表示、分類されていた。サークルタイムでは発言しやすい雰囲気作りがなされ、最後まで聞いて受け

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

良さ／

いつでも子どものことを第一に考えているところや、伝統を大切にしながらも新しい風を受け入れる園風土や、コーナー遊びの実践。

課題／

遊びの継続、行事前の時間の確保、職員間のベクトルを合わせることの難しさ、保護者や子どもの多様性への対応、異年齢交流の充実、安全面への配慮。

課題解決に向けて／

見守りカメラの設置やコーナー遊びの動画撮影での共有やマニュアル化。職員会の日時設定による効率化、異年齢保育日やお手伝い日を設けたり、一日自由に過ごす日を設けるなど保育の取り組みにおける工夫。

ヒアリング等・書面等による評価

<A 教育・保育>

①子どもの人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	○済・未
2	子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	○済・未
3	身体、性、年齢、発達之差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	○済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	○済・未
5	子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	○済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、保育者と子どもに、共に大切に扱われている。	○済・未
7	全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団（学級）のなかにある。	○済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	○済・未
(コメント) 子どもたちの意見を自由に出し合い、子ども同士の話し合いを尊重していく ひとときと場を「サークルタイム」と名付けて実践している。		

②保育者等の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者等の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	保育者等一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子どもと関わることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	保育者等一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
(コメント) 園長を含めた保育者同士の協議等もよく行われている。保育者集団として、子どもたちの十分な「遊び」の時間を確保する基盤を大切に創りあげていこうとする保育者集団の願いが伝わってくる。		

③教育・保育における実践

1) 子ども理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達過程を踏まえながら、一人一人の子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を保育者全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。	済・未
3	子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を保育者間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか、記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。	済・未
(コメント) 保育のプロセスや子どもの成長や意味を誰もが理解できる、いわゆる「ドキュメンテーション」の制作に保育者皆で熱心に関わっている。日誌、成長記録ノートなども密に活用して子どもの姿や育ち、実践について様々に伝えている。 地域の専門機関や小学校とも連携し特別支援教育の環境整備を常に心がけている。		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子どもの発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
(コメント) 計画は、子ども理解と実践が密につながりながら作成されている。とりわけ、子どもの遊びの姿を反映させていく計画が大事にされ、遊びは学びという保育の基本がそこにあり、保育者の連携も活かされている。		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<表現活動について>多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさで整えられ修繕されている。	済・未
(コメント) 全体的に質の高い保育環境が展開しているが、一考する余地も残されている。たとえば動植物の飼育、栽培については、子どもたちのより主体的な関わりが求められると感じ、あらためて、それを深めていくための構成や考察を深めていってほしい。子どもの成長に合わせた絵本、図鑑等を子どもが自主的に選び、興味をもって関われる環境づくりをあらためて検討することも保育者間で議論してほしい。		

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。 (1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。 (2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。 (3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。 (4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。 (5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	済・未
2	子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。 (1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。 (2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。 (3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。 (4)子どもが周囲の自然に親しみをもち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。 (5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。	済・未
3	遊びを通した総合的な指導を行っている。 (1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。 (2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。	済・未
4	子ども一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。 (1)子ども一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。 (2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。 (3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。 (4)特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。	済・未

5	行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。 (1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。 (2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。 (3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。	済・未
(コメント) 園全体が子どもが主体的に自分の目的を持って遊び込める時間と空間を保障しようとしている保育者の願いが広がる雰囲気がある。どのクラスも一人ひとりの子どもが、自主的に考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている様子が見られたことは、すばらしい。		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。	済・未
2	記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。	済・未
3	適宜、実践の振り返りと評価をする機会がある。	済・未
4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子どもの育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
(コメント) 保育者同士が共有する記録が、きちんと整理され実践の振り返りがしやすい。また、保護者や地域社会等の園外に向けて発信するような保育記録も大切にしている。学校評価の公表も着実に実施している。		

④家庭や小学校、地域との連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	①済・未
2	子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	①済・未
3	自己評価・学校関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	①済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	①済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	①済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	①済・未
(コメント) 園独自の総合野外学習施設(グリーンスクール)を有し、さらに地域に学園が運営する「子育てセンター」を創設するような試みを行い、地域と一体となった子育て支援を進めている。このような画期的な実践は、保育の新しい扉を開く実践と言える。		

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< B 運営 >

①運営体制

	調査項目	確認結果
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	○済・未
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	○済・未
3	会計事務を適切に行っている。	○済・未
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	○済・未
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	○済・未
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	○済・未
7	学校評価を実施している。	○済・未
8	適正な法人運営を行っている。	○済・未
(コメント) 認定こども園3園、幼稚園1園を運営する学校法人富高学園は、創立90年を超える富高幼稚園を中心に、堅実な法人運営を続けている。昨今の人材難の中にあっても、スケールメリットを生かしつつ、良い人材(教職員)を確保して、良質な乳幼児教育・保育を継続的に行えるよう、職場環境を含めて、常に改善を図り、地域に根ざした乳幼児教育センターとしての役割を担うべく努力している姿を目の当たりにすることだった。		

②安全管理

	調査項目	確認結果
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未
(コメント) 安全管理について、各種マニュアルが整備され、特に大切な部分は掲示するなど、教職員及び保護者にも周知されている。また地域の特性に応じて様々な想定の下、毎月の訓練が実施されている。学校環境衛生検査について、ホルムアルデヒド、ダニ・アレルゲン、照度検査等も実施できるとさらに良いと思われる。		

③子育ての支援

	調査項目	確認結果
1	子どもの発達や学びが、小学校教育につながるように小学校との連携をはかったり、地域の関係機関や団体と連携をはかったりしている。	済・未
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取組を行っている。	済・未
(コメント) 未就園児教室や園開放日を設けるなど、親子が自由に園施設を利用できる日を、定期的に設けている。その際に、保護者からの様々な相談に応じることができるよう体制を整え、地域の幼児教育センターとしての役割を担っている。		